

令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 7	公益目的事業 17
主査名	鹿島 茂 中央大学名誉教授	
研究テーマ	現状の高速交通体系を実現させた交通基盤整備の過程から見られる 検討課題の抽出	
<p>高速道路や新幹線から成る高速交通体系がほぼ概成しその維持・改良が中心となる一方、自動運転、新エネルギー、AI等の実用化に伴い新たな交通体系の出現とこれを支える交通基盤が論じられつつある。</p> <p>こうした時期にこれまでに行われてきた交通基盤整備を振り返り、高速交通体系を出現させた交通基盤整備がどのように構想され、どのように形成され、その結果としてどのような交通サービスが出現してきたのかを可能な限り総合的、網羅的に俯瞰し、現在までには十分には検討しきれていないと考えられる課題や整備の過程で新たに認識された課題について把握しておくことは、新たな交通体系の構築に必要となる交通基盤の整備に対し有益な知見を提供することが出来る考える。</p> <p>主な内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 明治以降の道路整備の変遷を、国道、高速道路の網の形成過程に特に着目して検討する2) 鉄道整備の変遷を、戦前の幹線鉄道広軌化計画、東京・下関間弾丸列車計画、戦後の新幹線計画の関連性に着目して検討する3) 道路と鉄道の整備過程での競合関係を、戦前の重要道路と弾丸列車、戦後の高速国道と新幹線について都市間の旅客交通に着目して検討する4) トラックによる貨物輸送を支えるための基盤整備の変遷を、高速道路利用のトラック、鉄道、船舶による国内貨物輸送の相互関係に着目して検討する。5) 都市における鉄道のための基盤整備の過程を、路面電車から地下鉄への変化、放射型の高速鉄道と郊外駅でのバス輸送の接続、地下鉄と高速鉄道の直通運行による旅客輸送への影響に着目して検討する。6) 明治以降の身近な短距離の交通を支えた交通手段の変化とこのための基盤整備の変遷を、特に自転車に着目して検討する。		